令和５年度第4回高松市高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会（R6.2.21）	資料４

地域ケア会議

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていくために

高松市地域包括支援センター

共生社会の実現を推進するための認知症基本法　令和6年1月1日施行

基本理念（一部抜粋）

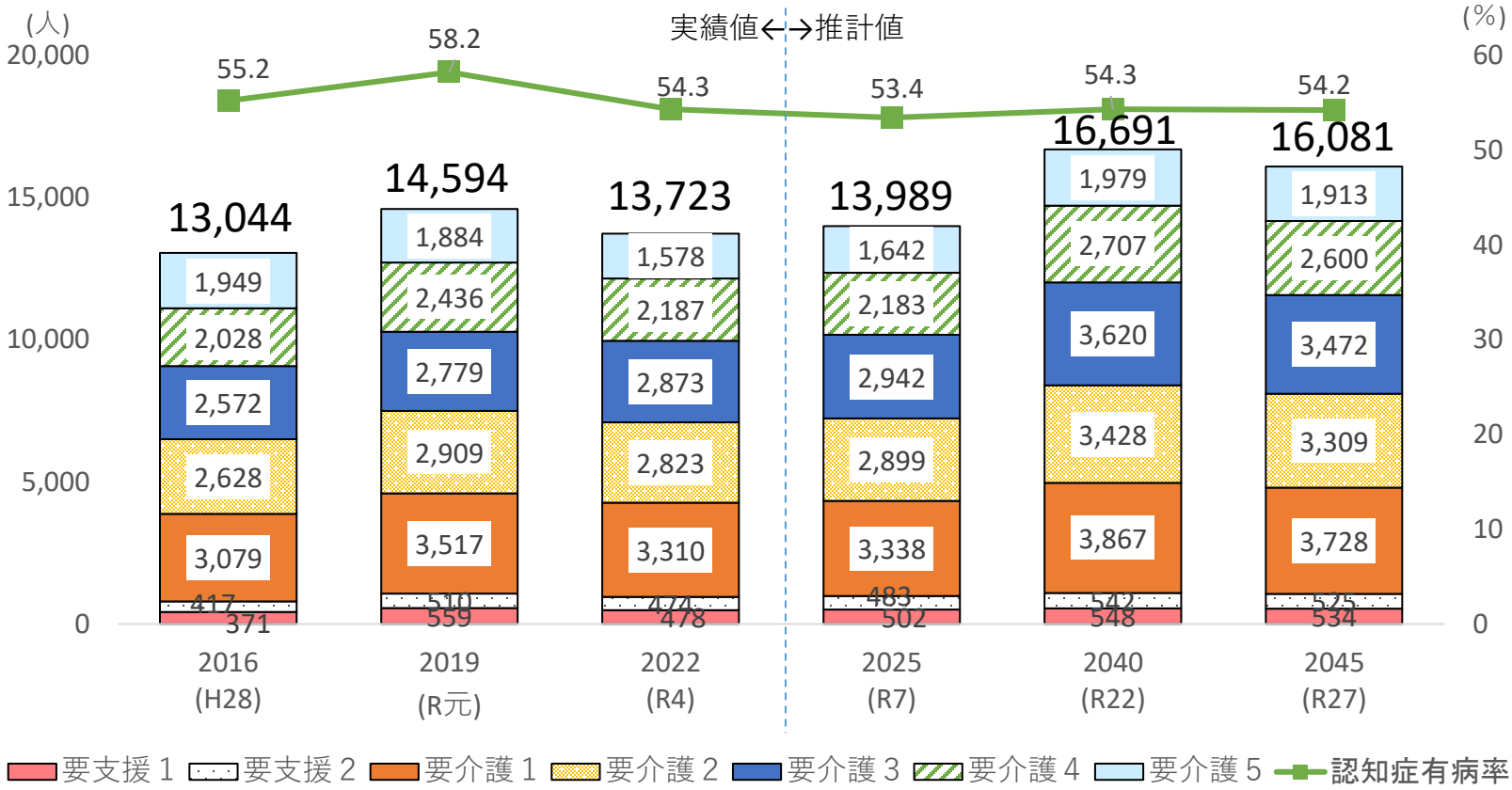
全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人として自らの意思によって日常生活や社会生活を営むことができるようにする

認知症の人にとって日常生活や社会生活を営む上で障壁となるものを除去し、社会の対等な構成員として個性と能力を十分に発揮できるようにする

国	地方自治体	事業者	国民
認知症の人と家族の意見を聴き、認知症施策推進基本計画の策定義務	認知症の人と家族の意見を聴き、推進計画作成の努力義務	事業遂行に支障がない範囲で認知症の人に必要かつ合理的な配慮をする努力義務	認知症の正しい知識と、認知症の人に関する正しい理解を深める努力義務

認知症高齢者数の推移

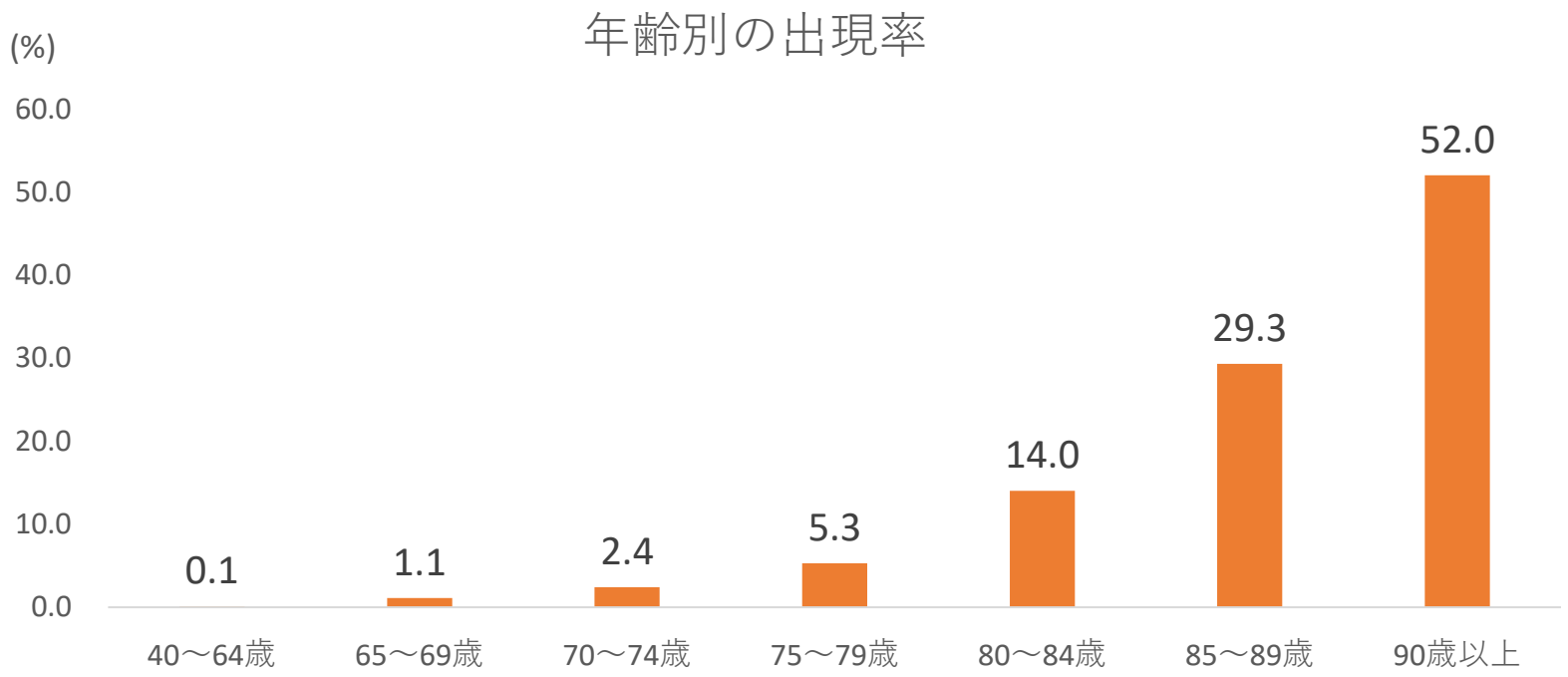
要介護（要支援）認定者における認知症高齢者数の推移
（認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者数）



資料：第１号被保険者の集計　※新型コロナウイルス感染症による、要介護認定の有効期間の延長対象者は含んでいない
令和５（2023）年以前は、高松市介護保険課による算出（令和５（2023）年9月末）
令和８（2026）年以降は、要介護度別・性別・年齢構成区分別の出現率法による推計

2025年の要介護認定者における認知症高齢者数はおよそ14,000人と推計されており、今後も増加が見込まれている。また、2025年の要介護認定の有無を問わない高松市全体の認知症高齢者数は24,000人に上ると推計されている。

年齢別人口に対する認知症高齢者の割合（出現率）



資料：高松市介護保険課による算出（令和５（2023）年9月末）
※新型コロナウイルス感染症による、要介護認定の有効期間の延長対象者は含んでいない

年齢別の認知症の有病率では65～69歳では1.1％であるのに対し、90歳以上では52.0％と、認知症の有病率は年齢とともに急峻に高まる。
認知症は高齢になると誰もがなりうる身近な病気と考えられている。

認知症とともに生きる希望宣言

ひと足先に認知症になった私たちからすべての人たちへ

1 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。

2 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

3 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。

4 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。

5 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを、一緒につくっていきます。

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループが、２０１８年１１月に発表

本人の声

認知症に対する思い

●認知症と言われたけど、それがどうした。
●僕自身は変わっていない。物忘れしがちというのはあるけど、変わったつもりはない。
●忘れたら、忘れた分の世界でやっている。

前向きな暮らしを支えるもの

●（誰かを）助けてあげられることがあったらしたいですね。助けると気持ちが良くなるんです。
●（グループホームでのご自身の役割を語って）ここの食事は私が作っているのよ。
●（認知症カフェで）今日も楽しいひと時を譲っていただき有難うございました。同席されていた皆様も同じ気持ちで過ごされたものとの思いがしていっそう幸せな気持ちに浸ることができました。

周囲への思い

●僕は自分の言っていることは覚えていることもある。だけど、同じ話してと馬鹿にされるんだ。
●久しぶりに穏やかな気持ちで過ごせたな。（「じゃあ、穏やかな気持ちで過ごせる場所があるといいですね」と伝えると）そうだなぁ。あなたはね。専門家だから話を合わせてくれるけど・・・。
●（頭を抱えながら）周りが色々と言うんよ。
●（認知症で）誰かの世話になっとるなんて知られたくない。

認知症になっても自分は自分。他の人と同じように人の役に立てば嬉しいし、好きなことを続けるのは楽しい。そして、地域の人と一緒に楽しく生活していきたい。だけど、周囲の理解が足りず傷つくこともある・・・。

家族の声

●同じ立場の人と話がしたい。

●周囲の人には認知症のことを話してません。
家族のつどいだから話せてます。

●グループミーティングで体験から得た知識を教えてもらえて良かった。個別の話は力をもらえる。

●最初診断されてからしばらくが一番しんどい。その時に相談できるところが欲しかった。

●本人は意欲的に取り組もうとするが、どうしてもできないことが多い・・・。

●近所の人に妻が認知症であることを伝えたとたん、よそよそしくなった気がする。

●（親しくなった人に夫が認知症であることを話したときに）
何か私にお手伝いできることがあったら言ってねって、まんま最初から自然と私を受入れてもらえたなというのが嬉しかった。

認知症の人を支える家族が、安心して情報交換や経験を語り合う場が必要
周囲の理解に支えられたという声がある一方で、認知症であることを打ち明けたら周囲にどう思われるか不安を感じている。

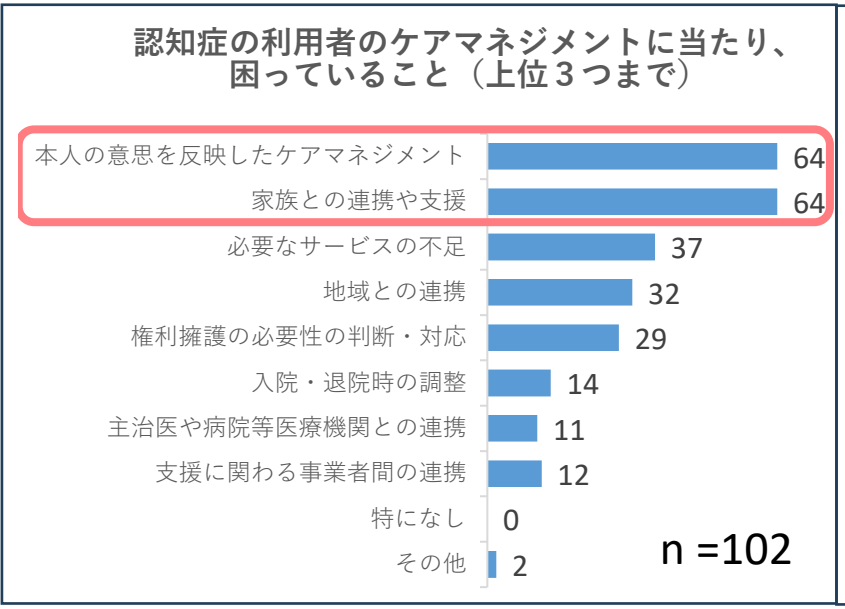
介護支援専門員の声

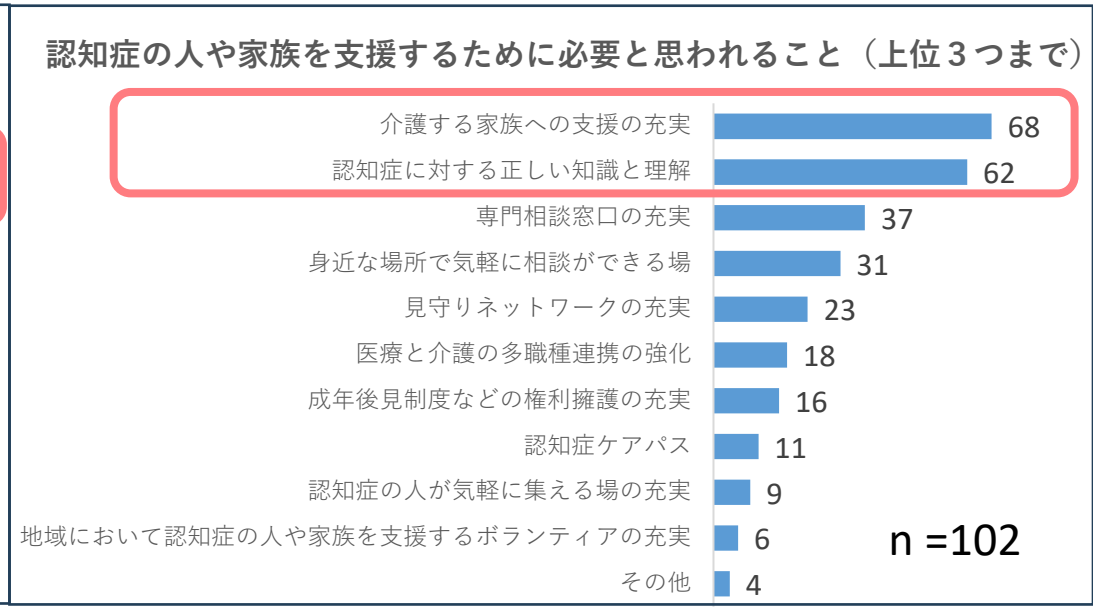
（R5年度介護支援専門員情報交換会（勝賀・国分寺・香川エリア）グループワークより）

●介護支援専門員は、本人や介護する家族の身近な存在として、悩みや苦悩を日常的に感じており、「**介護する家族への支援の充実**」が必要だと考えている。

●地域住民のゆるやかな見守りや、近隣商店等の見守り・協力等の支えがあり、在宅での生活を続けることができているケースがあることから、「**認知症に対する正しい知識と理解**」が重要だと感じている。

令和5年度介護支援専門員情報交換会（勝賀・国分寺・香川エリア）アンケートより

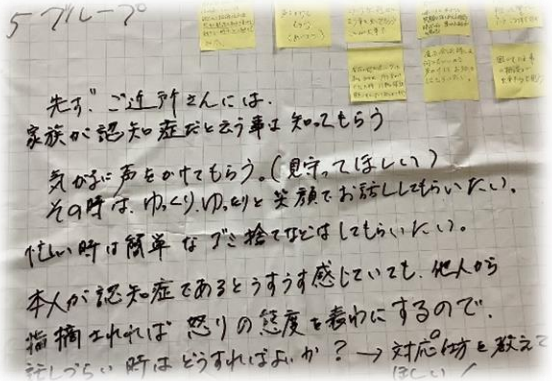




地域の声

二番丁地区認知症サポーター養成講座グループワーク（R5年12月2日）

「一緒に暮らす家族が認知症になったとき、
お隣さんや、ご近所さんにどのようなことをしてもらいたいですか？」



- ●今までと同じように本人が外で歩いているとき、声をかけてもらいたい。
- ●奇抜な目で見たり、あまり病気扱いせずに接してほしい。
- ●本人を見守り、気づいたことがあれば知らせてほしい。
- ●認知症家族の世話をする大変さを聞いてほしい。
- ●介護に関するいい情報があれば教えてほしい。
- ●まずご近所にこういう状態だということを知ってもらうことが大事。
- ●「もの忘れ」という言葉は言いやすくても「認知症」という言葉は使いにくい。
  がんと同じように「認知症」という言葉が言え、SOSが出せるようにしていきたい。

地域ケア小会議（個別ケース検討）より

- ●徘徊を繰り返したり、被害妄想のターゲットになったりすると、地域は疲弊し、お互いに安心して暮らせないこともある。

認知症を自分事として考えたときに、認知症になっても特別扱いせず、これまで通り接してほしいという声が多かった。そのためには、認知症に対する周囲の正しい理解が必要だという気づきがあった。
一方で、認知症の症状によって地域が困っているときには、専門機関等と連携した対応を望んでいる。

地域での取組

認知症の人が安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域で認知症の人を見守る活動や認知症サポーター養成講座に取り組む地区が増えている。

香西長寿声かけ隊

香西地区は「認知症になっても今以上に安心して暮らせるまちづくり」をスローガンに、認知症カフェ（サンカフェ香西）の運営、認知症SOSやさしい声かけ模擬訓練の実施、地域の小・中学校等に働きかけ認知症サポーター養成講座を実施している。

地域での認知症サポーター養成講座

認知症への正しい理解や接し方について学ぶ「認知症サポーター養成講座」を実施

「香西長寿声かけ隊」は、R5.3に「高松市チームオレンジ」（認知症の人ができる限り、地域の社会で、自分らしく暮らし続けることができるまちづくりに寄与する団体）の第1号として認定！

認知症になっても
住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

背景　認知症高齢者や在宅で暮らす認知症の人の増加

●認知症に関する正しい知識と理解を深める
●尊厳のある本人らしい生活の継続
●家族の介護負担の軽減

本人の視点・声

第９期
高松市高齢者保健福祉計画
における主な取組

1. 認知症バリアフリーの推進
2. 認知症に対する正しい理解の増進
3. 相談支援体制の充実
4. 認知症の早期発見・早期対応
5. 成年後見制度の利用促進

第9期高松市高齢者保健福祉計画における主な取組

事業	主な取組内容
1 認知症バリアフリーの推進	●認知症本人のやりたいことの実現、生きがいづくりを支援する ●認知症本人が安心して集い語れる場を設ける ●高松市チームオレンジの拡充、活動支援 ●行方不明者の早期発見・保護のためのネットワークを構築
2 認知症に対する正しい理解の増進	●地域・学校・企業等に認知症についての正しい理解・知識を普及 ●認知症サポーターボランティアへ活動の場の紹介やマッチング ●認知症の状態に応じて、いつ・どこで・どのような医療や介護サービスを受けられるかをまとめた「認知症ケアパス」の活用
3 相談支援体制の充実	●認知症本人や家族、地域等からの相談の受け止め ●本人と関わりのある地域や関係機関等と連携を強化し、支援体制を構築 ●認知症地域支援推進員の配置 ●認知症本人を支える家族のつどい「ひだまり」の充実 ●「認知症カフェ」の設置・運営の支援
4 認知症の早期発見・早期治療	●認知症の知識を持つ専門チームを派遣し、認知症が疑われる人や認知症の人を適切な医療・介護につなぐため支援する
5 成年後見制度の利用促進	●高齢者本人の人権や財産等を守るための支援 ●市民後見人の育成

これからの取組

➢ 本人支援の充実

本人のつどい（仮称）や認知症カフェなど、本人が安心して過ごせる居場所の拡充を図り、本人のやりたいことの実現や生きがいづくりを目指す。

本人のつどい（仮称）の実施

認知症本人が集い、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い交流を図る。

認知症カフェの充実

認知症本人やその家族、認知症に関心のある人なら誰でも、気軽に立ち寄れる場所。

現在高松市内に**２３カ所設置。**

認知症本人が安心して過ごせ、認知症の人の家族が気軽に相談できる場となるように支援する。

➢ 認知症サポーターボランティアの活躍支援

認知症サポーター養成講座及びステップアップ講座を受講し、ボランティア活動に協力する意思がある方を、認知症サポーターボランティアとして登録（R6.1月現在68名）し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりの担い手としての活動を推進する。

認知症サポーター養成講座 ➡ ステップアップ講座 ➡ **認知症サポーターボランティア**

活動内容の例

認知症カフェ協力

- ●カフェに参加し見守り・話し相手
- ●カフェでの準備や配膳手伝い
- ●特技を生かしたプチ講座　等

周知啓発活動

- ●認知症サポーター養成講座への同行（寸劇や周知のお手伝い）
- ●認知症関連情報のチラシ配り 等

その他の個別支援

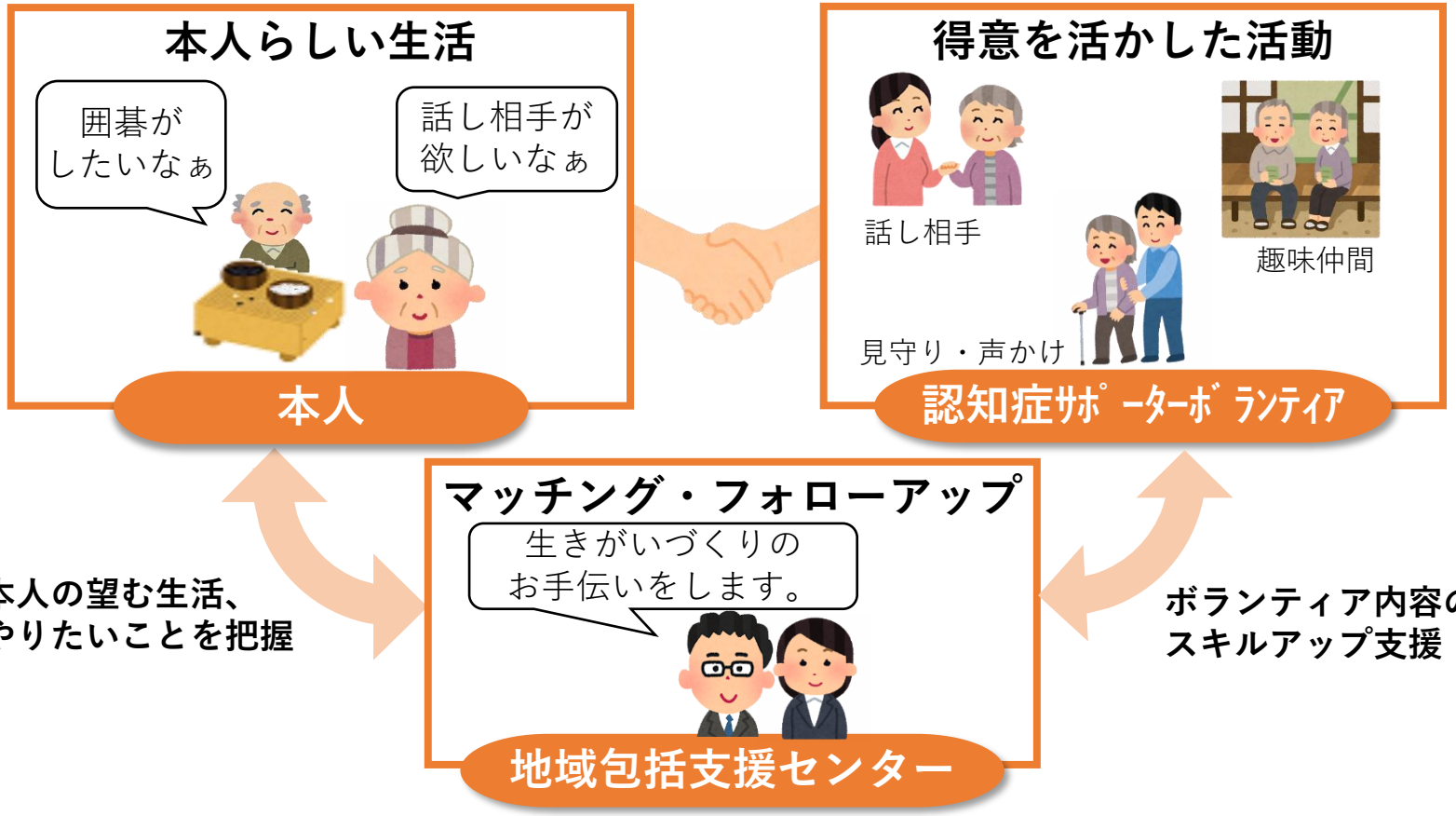
- ●地域での見守り・声掛け
- ●話し相手
- ●趣味仲間（散歩や将棋）　等

スキルアップのための勉強会
チーム員同士の情報交換会

これからの取組

➢ 本人と認知症サポーターボランティアをマッチング

地域包括支援センターの認知症地域支援推進員等が、本人の望む生活ややりたいことと、地域の認知症サポーターボランティアの活動をマッチングし、本人の生きがいづくりを支援する。



➢ チームオレンジの立ち上げ、活動支援

地域の多様な主体が、認知症の人を見守り支える「チームオレンジ」として活躍できるよう、チームの立ち上げや活動支援を行う。

チームオレンジとは

認知症の人が地域で自分らしく
暮らし続けることができるまちづくりに
寄与する活動を行う団体・グループ

チームオレンジの活動内容

- 見守り・声かけ、話し相手など
- 外出支援、生活支援
- 活動拠点（認知症カフェ、居場所等）が安心できる場所となる活動
- 認知症本人の意思を尊重した支援活動
- 認知症に関する周知・啓発活動

これからの取組

➢ 心のバリアフリーの推進

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続ける社会を実現するためには、認知症に関する正しい知識と理解を深めることが不可欠。様々な機会を捉えて、市民や事業者等に対して心のバリアフリーを推進する。

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続ける社会の実現

社会全体で認知症に対する正しい理解を深める